

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

(1)佐渡版DMOのビジョンについて

- ① 複数の専門家によるセミナー・ワークショップでの世界観共有の重要性
- ② 三資産の利活用を含む「さどんぼ」×「伝泊」などの可能性
- ③ つまりは「地域づくり」ということ

(2)佐渡版CCRCのビジョンについて

- ① 佐渡版地域包括ケアシステム構築の進捗状況
- ② エクサドン×温泉施設利活用による健康寿命伸長策、認知症予防対策
- ③ つまりは「地域づくり」ということ

(3)佐渡を永続させる方程式：DMO×CCRC＝PPKについて

- ① 多世代交流、地域の仕事を行うこと、集落のガイドを行うことなどの重要性
- ② 空き家・廃旅館・廃校舎などの現状と利活用の可能性
- ③ つまりは「地域づくり」ということ

(4)佐渡版文化振興財団のビジョンについて

- ① 寺社仏閣、35の能舞台、茅葺などの古民家の利活用
- ② 財源の確保手法、政教分離の原則との兼ね合い、建築資材の地産地消
- ③ つまりは「地域づくり」ということ

(5)地産地消推進条例の更なる推進について

- ① 学校給食の地産地消率向上施策
- ② 市民農園・遊休農地・地産食材供給の現状
- ③ 23の小学校区単位で実行する地域の情報化（地域おこし協力隊の招聘）

(6)特定有人国境離島地域社会維持推進交付金について

- ① 雇用機会拡充事業（佐渡市雇用機会拡充事業補助金）の状況
- ② 「もう一泊」したくなる地域の魅力の旅行商品化（滞在型観光促進）の状況
- ③ キャリア教育ネットワーク等との連携による10代、20代の起業支援の可能性

■■■演壇にて■■■

皆さん、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会の室岡啓史でございます。『なんでも提案団』として通告に従い一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

【しごとづくり】

(1) 佐渡版DMOのビジョンについて

- ① 佐渡版 DMO 構想の進捗について教えてください
- ② 「もう一泊」したくなる地域の魅力の商品化及びその訴求方法（滞在型観光促進対策）の状況について教えてください
- ③ 複数の専門家によるセミナー・ワークショップでの世界観共有に関する提案
- ④ 佐渡アイランド集落ツーリズムと三資産の利活用を含む「さどんぼ」×「伝泊」などの提案

(2) 特定有人国境離島地域社会維持推進交付金について

- ① 雇用機会拡充事業（佐渡市雇用機会拡充事業補助金）の状況について教えてください
- ② 萎縮効果を及ぼさないような運用に関する提案

平成 30 年度中の立ち上げを目指す、佐渡版DMOのビジョンについてお尋ねします。議員になって、この一年と約二カ月間、佐渡で開催されるセミナーやワークショップに多数参加させていただきました。とりわけ観光DMOについては、観光地域づくりに関連する複数の専門家の皆さんが講師として佐渡へおいでくださり、成功事例等についてお話をいただき、大変勉強になりました。そして、気が付いたことは専門家の方々のお話には共通点が多く、とりわけ思い描く世界観はかなり似通っているのではないかとということです。要は、今ある【A】人的、【B】物質的な資源を①磨き、②光らせ、③活用するべきであるということに仰せの方が非常に多いと感じました。

世界遺産登録を目指す佐渡金銀山、能登と並び日本で最初に登録された佐渡の世界農業遺産（ジアス）、日本ジオパークに登録された佐渡ジオパークという三資産の利活用を行うべきではないかと考えます。それぞれのガイド養成講座を数年前から受けて感じることは、佐渡の魅力は知れば知るほど深みを増してくるということです。よって、集落のムラ歩きを楽しむ「さどんぼ」でも三資産の魅力を伝える好機とし、併せて伝統的・伝説的な建築に宿泊する「伝泊」などの取り組みと掛け算することで、佐渡の集落を堪能する仕組みづくりができるのではないかと考えます。

次に、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金についてお尋ねします。「もう一泊」したくなる地域の魅力の旅行商品化（滞在型観光促進）の状況についてお教えてください。滞在型観光促進はまさに観光地域づくりを推進する佐渡版DMOとも相通ずるところかと思いますが、いかがでしょうか。

また、雇用機会拡充事業（佐渡市雇用機会拡充事業補助金）の状況についてお教えてください。不正は悪だが、失敗は悪ではない。むしろ失敗は成功の母であると考えます。ついては、募集要綱の条件が厳しすぎると、やってみようというチャレンジ精神をそいでしまうリスクがあるということに留意するべきではないかと考えます。萎縮効果を及ぼさないような運用についてご期待申し上げます。佐渡市の見解をお聞かせください。

【ひとづくり】

- (1) 高校生のビジネスコンテストと佐渡市の連携について
- (2) 若者の起業支援に関する状況について
- (3) 創業支援ネットワークとこれらの活動の連携に関する提案

ひとづくりにおいて、佐渡の高校生がキャリア教育の一環として様々な活動をされているのは、大変微笑ましい光景であります。そこで、彼らが何かをしたいというイベント等の立ち上げから始まり、ひいては起業へと結びつける橋渡しができないでしょうか。三月に開催された、高校生のビジネスコンテストと佐渡市の連携についてどのようなになっているかお尋ねします。もちろん大学に進学するといった進路も大切にしながら、高卒直後の起業や大卒で佐渡へ起業Uターンするといった事例をつくることで、佐渡の若者の明るい未来づくりをサポートできるのではないかと考えます。その際に特定有人国境離島地域社会維持推進交付金が活用できるのではないかと思いますし、創業支援ネットワークを活用した若者である10代、20代の起業支援の可能性についてはいかがでしょうか。佐渡市の見解をお聞かせください。

【まちづくり】

- (1) シニアが健康に暮らせるまちづくりについて
 - ① 佐渡版地域包括ケアシステム構築の進捗状況について教えてください
 - ② エクサドン×温泉施設利活用による健康寿命延長策、認知症予防対策の提案
- (2) シニアが輝けるまちづくりについて
 - ① 佐渡版 CCRC のビジョンについて
 - ② まずは CCRC を学ぶ機会づくりの提案
 - ③ 佐渡アイランド集落ツーリズムによる CCRC の検討（多世代交流、集落のガイド等の仕事をシニアにお願いできる体制づくり）の提案
- (3) 空き家・廃旅館・廃校舎などの現状と利活用について
 - ① 現状について具体例等を教えてください
 - ② 空き家・廃旅館・廃校舎と CCRC の結びつきに関する提案
- (4) 佐渡版文化振興財団のビジョンについて
 - ① 寺社仏閣、35 の能舞台、茅葺などの古民家の利活用
 - ② 財源の確保手法、政教分離の原則との兼ね合い、建築資材の地産地消
- (5) 地産地消推進条例の更なる推進について
 - ① 学校給食の地産地消率向上施策
 - ② 市民農園・遊休農地・地産食材供給の現状
 - ③ 23 の小学校区単位で実行する地域の情報化（地域おこし協力隊の招聘）

シニアが健康に暮らせるまちづくりについて、佐渡版地域包括ケアシステム構築の進捗状況についてお尋ねします。2025年に構築を目標としている現状において、どのようなところに重きを置くのかについてお答えください。私は、CCRC (Continuing Care Retirement Community) = 「継続

的なケア付きの高齢者たちの共同体」の考え方を取り入れ、集落で暮らす高齢者の皆さんが健康長寿でありつづけられる佐渡づくりが必要だと考えます。例えば、太鼓で心も体も健康になるエクサドンやしゃきっと教室など、介護予防教室と温泉施設利活用を掛け算して、健康寿命伸長策、認知症予防対策をするべきではないかと考えます。佐渡市の見解をお聞かせください。

例えば、アクティブシニアつまりは、元気な高齢者の皆さんが、小中学校に赴き総合学習に関わることや、子どもを預かるような多世代交流をしたり、野菜作りや草刈りなどの地域の仕事を行うこと、観光のお客様に集落のガイドを行うことなどによって、生き甲斐を見出し、ひいては健康長寿であり続けること。それが観光DMOの観光地域づくりの中で掛け算されていく仕組みづくりが必要だと考えます。私は、観光DMOは「旅行商品の地産地消を推進する組織」という解釈をしておりますが、より多くの高齢者の方が集落への貢献という役割を担いながら暮らしていただくことが重要だと考えます。

そこで、空き家・廃旅館・廃校舎などをリノベーションして、アクティブシニアの皆さんの住まいとしたり、集落ガイドや生活必需品購入の拠点として利活用できないかと考えます。佐渡を永續させる方程式： $DMO \times CCRC = PPK$ とは、観光地域づくりに関わりながら、元気な高齢者として日々の生活を営み地域に貢献していただくことで、ピンピンコロリの最期を迎えることができれば、その人にとってとても幸せな人生だったと思えるような世界が実現できるのではないかと考えています。 $DMO \times CCRC = PPK$ が佐渡を永續させる方程式であるということについて、佐渡市の見解をお聞かせください。

また、平成30年度中の立ち上げを目指す、佐渡版文化振興財団のビジョンについてお尋ねします。民謡や伝統芸能の保存といったソフト的要素も重要ですが、佐渡に数多く現存する寺社仏閣、神社に併設される35の能舞台、重要文化財である茅葺などの古民家の整備といったハード面について、文化振興財団の活躍が期待されるどころだとも思います。

財団としての財源の確保手法についてはどのようになっているのか。政教分離の原則による税金の投入を直接的には宗教施設には活用できないのであれば、抜本的な策は持ち合わせているのか。また、佐渡の山林に眠る木材の資源や、加茂湖や平（だいら）、国府川等にある葦（よし）を活用した茅葺の再生など、建築資材の地産地消を推進するべきではないかと考えます。佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、平成21年10月1日施行の佐渡市地産地消推進条例は、地元でとれたものを地元で消費するという、かつては当たり前であった食文化を取り戻そうとする主旨です。そこで、学校給食の地産地消率向上施策についてお尋ねします。近年の地産率についてお教えてください。また他自治体の事例等、参考になることが多いと思いますが、佐渡の郷土食推進等、学校と行政とが連携した学校給食の提供が期待されます。庭先集荷等の素晴らしい取り組みがあり、市民農園や遊休農地等の活用が期待されます。学校給食に遊休農地を活用した野菜を提供できないものでしょうか。先述のアク

ティブシニア層をメインターゲットとし、学校給食用の野菜を遊休農地で作ってもらおう。売り先は決まっており、佐渡の子どもたちが美味しく食べてくれるということに生き甲斐を見出すことができる。地産食材供給の現状を打破することができる取り組みになると考えます。

それには、農地の情報化・最適化が必須と考えます。農業委員・農地利用最適化推進委員の皆さんのご協力や23の小校区単位で実行する地域の情報化を地域おこし協力隊の招聘により実現できないものでしょうか。佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。
